

高品質なアスファルトの 安定供給維持が使命

協長
合新
日今泉

2日付で就任した日本アスファルト合材協会（日合協）の今泉保彦会長は、同日に東京都千代田区の大手町サンケイプラザで開いた定時総会で、今後の方針を示した「写真」。脱炭素化や国土強靱化、防災・減災の取り組みを深化していくため「循環型社会を構築する安全で安心、そして高品質

なアスファルト合材の安定供給を維持することが最大の使命だ」と決意を語った。

＝1面参照

日合協によると、2021年度の全国合材製造数量（速報値）は前年度比1・7%減の3872・8万トの実績。4期連続で4000万トに届かず低調を維持している。今泉会長は協会



を取り巻く環境について「ウクライナや中東地域での地政学的リスクの高まりや急激な円安に代表される金融資本市場の変動で、さらなる原油価格の高騰や供給不安への進展が懸念される」と指摘。気を引き締めて協会運営に当たるとの方針だ。

道路整備事業については「新技術としての舗装材料に高い信頼をいただいている」との認識を示した。その上で協会活動の意義について「道路は社会経済活動、

国民生活の基幹を支える社会資産であり、当協会が果たす役割は極めて重要」と強調した。

環境分野の取り組みでは「協会は自然環境保全のための二酸化炭素（CO₂）排出量抑制運動を推進し、環境と共生するアスファルト合材工場の構築にも努力している」と紹介。「今後ともニーズの多様化、高度化への要請に対し、技術情報」の共有を図っていく」と

語った。最後に「日本アスファルト混合物業界、関連産業の健全な発展のため、微力ではあるが精いっぱい大任を果たしていく」と抱負を述べた。

3期6年の任期を終えた石津健光前会長に対し、これまで協会の運営への貢献に謝意を示した。石津前会長は定時総会で「今後立場は変わるが協会活動に引き続き貢献していく」と語った。

